

科目名	特別研究				担当教員：清水 かおり	
科目名(英語)	Master's Thesis of Science in Nursing					
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー	
8	2	前期・後期	1~2	看研6	月曜日・金曜日6限	
<p>1. 授業の概要:</p> <p>専門演習の履修により作成した研究テーマに即した研究計画書をもとに研究を進め、修士論文を作成する。 倫理審査申請後、研究計画にそって、データの収集、分析解釈、考察など中間発表を行なう。その後、論文を作成し、公開発表のプレゼンテーションの方法を学ぶ。</p> <p>このクラスの研究分野は、看護学教育分野である。具体的には、看護基礎教育の方法と評価、院内教育の方法と評価などの看護教育学に関連した対象の選定や具体的な研究の進め方、データ収集の方法と処理、分析方法、データの解釈について研究指導を行い、修士論文を作成していく。</p> <p>2. 到達目標:</p> <p>看護学教育分野における研究課題に関する研究計画書に基づいて研究を実施し、その結果を踏まえて修士論文を作成する。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>基盤看護学特論Ⅰ(看護教育学領域)、基盤看護学特論Ⅱ(看護教育学領域)、専門演習(看護学教育)での学習をふまえて以下の課題に取り組む。 (学生により進度は異なる)</p> <p>前期 第1週～第15週</p> <p>①フィールド開拓:研究協力の依頼ならびに研究対象者の選択の過程を通じて、適切なフィールドを開拓する方法を学ぶ。 ②データ収集の実施:実際にデータ収集を行うことにより、適切なデータ収集の方法ならびにデータ収集に伴う諸問題への対処方法を体験的に学習する。 ③データ分析の実施:指導教員のスーパーバイスを適宜受けることにより、分析結果の妥当性・信頼性を高めると同時に、分析能力を培う。</p> <p>後期 第1週～第15週</p> <p>④分析結果の考察:分析結果を踏まえて、文献検討により考察を深める。 ⑤修士論文の作成:一連の研究過程の成果をまとめて修士論文を作成する。 修士論文は12月下旬までに、学位論文審査願及び論文要旨を添えて、指導教員を経て研究科長に提出する。</p> <p>4. テキスト:</p> <p>「バーンズ&グローブ看護研究入門：実施・評価・活用」バーンズ&グローブ(黒田裕子他監訳) エルゼビア・ジャパン 「看護研究 原理と方法」監訳 近藤潤子 医学書院 「APA 論文作成マニュアル」APA 江藤裕之他訳 医学書院 参考文献： 随時提示する。</p> <p>5. 成績評価の方法:</p> <p>データ収集・データ分析ならびに研究結果の考察、修士論文の作成の一連の過程における成果ならびに学習態度を総合的に評価する。</p> <p>6. 履修の条件:特別研究以外の修了要件の履修単位が認定されているか同時履修中であること。</p> <p>7. その他:特になし</p>						

科目名	特別研究			担当教員： 玉井 なおみ	
科目名(英語)	Master's Thesis of Science in Nursing				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
8	2	前期・後期	1~2	看研5	火曜日・金曜日7限
<p>1. 授業の概要：</p> <p>専門演習の履修により作成した研究テーマに即した研究計画書をもとに研究を進め、修士論文を作成する。 倫理審査申請後、研究計画にそって、データの収集、分析解釈、考察など中間発表を行う。その後、論文を作成し、公開発表のプレゼンテーションの方法を学ぶ。</p> <p>このクラスの研究分野は、がん看護学分野である。がんの診断時期から終末期まで、がんとともに生きる人々とその家族の体験を広い視野から理解し、対象者の選定や具体的な研究の進め方、データ収集の方法と処理、分析方法、データの解釈について研究指導を行い、修士論文を作成していく。</p> <p>2. 到達目標：</p> <p>がん看護学分野における研究課題に関する研究計画書に基づいて研究を実施し、その結果を踏まえて修士論文を作成する。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>臨床看護学特論Ⅰ（がん看護領域）、臨床看護学特論Ⅱ（がん看護領域）、専門演習（がん看護学）での学習を踏まえて以下の課題に取り組む。</p> <p>前期 第1週～第15週</p> <p>①フィールドの開拓：研究協力の依頼ならびに研究対象者の選択の過程を通じて、適切なフィールドを開拓する方法を学ぶ。</p> <p>②データ収集の実施：実際にデータ収集を行うことにより、適切なデータ収集の方法ならびにデータ収集に伴う諸問題への対処方法を体験的に学習する。</p> <p>③データ分析の実施：指導教員のスーパーバイズを適宜受けることにより、分析結果の妥当性・信頼性を高めると同時に、分析能力を培う。</p> <p>後期 第1週～第15週</p> <p>①分析結果の考察：分析結果を踏まえて、文献検討により考察を深める。</p> <p>②修士論文の作成：一連の研究過程の成果をまとめて修士論文を作成する。</p> <p>4. テキスト： 研究課題にそって随時提示する。 参考文献： 研究課題にそって随時提示する。</p> <p>5. 準備学習：毎回、課題を提示するので、次回までに準備すること。</p> <p>6. 成績評価の方法：データ収集・データ分析ならびに研究結果の考察、修士論文の作成の一連の過程における成果ならびに学習態度を総合的に評価する。</p> <p>7. 履修の条件：特別研究以外の修了要件の履修単位が認定されているか同時履修中であること。</p> <p>8. その他：授業後は学修した内容を配付資料およびテキストを用いて振り返り、自己の研究に活かすことが重要である。シラバスは研究の進行状況によって変更することがありますので、あらかじめご理解ください。</p>					

科目名	特別研究			担当教員：木村安貴	
科目名(英語)	Master's Thesis of Science in Nursing				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
8	2	前期・後期	1~2人	研603	
<p>1. 授業の概要： 専門演習の履修により作成した研究テーマに即した研究計画書をもとに研究を実施し、修士論文を作成する。 研究倫理審査の承認が得られた後、研究計画にそって、データの収集、分析解釈、考察など中間発表までの指導を行なう。 その後、論文を作成し、公開発表のプレゼンテーションの方法や論文提出までの修士論文作成の一連の指導を行う。 このクラスの研究分野は、「がん看護学分野」である。主に「がん」を取り巻く患者・家族、医療者、環境に関連する看護実践を主とした研究の指導を行い、修士論文を作成していく。</p> <p>2. 到達目標： ①自己の研究テーマに沿って作成した研究計画を実施できる。 ②がん看護学領域の質向上に貢献できる修士論文を作成する。 ③修士論文を公開発表会でプレゼンテーションし、最終審査に合格できる。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>前期</p> <p>第1週～第12週 研究計画書に沿って、研究実施準備（研究協力依頼等）、研究実施（アンケート配布、インタビュー等の実施） データの分析、データ分析内容の考察</p> <p>第13週～第15週 中間発表会にむけた準備と中間発表会の実施 9月 中間発表会 9月に研究経過および成果の発表の場として、中間発表会を行うため、発表の準備を行なう。 発表会で指摘された問題を確認し、課題解決を行う。</p> <p>後期</p> <p>第1週～第15週 修士論文作成～提出 9月～12月 論文の全体構成、資料・データの分析・整理法、図表の作成、文献検索など、論文作成までの指導を受けながら、論文を完成させ、12月下旬までに、修士論文に学位論文審査願及び論文要旨を添えて、指導教員を経て研究科長に提出する。 最終試験の実施 1月 論文内容の審査および口述試験による最終試験があるため、その準備を行う。 論文審査および口述試験を受ける。 修士論文の最終提出 2月 最終試験で指摘された事項を修正した修士論文を最終提出する 公開発表会 2月 研究成果の発表の場として公開発表会があるので、指導教員のもとで、発表内容をまとめ、研究成果を発表する。</p> <p>4. テキスト：「看護研究 原理と方法」監訳 近藤潤子 医学書院 「APA 論文作成マニュアル」APA 江藤裕之他訳 医学書院 参考文献： 随時提示する。</p> <p>5. 成績評価の方法： 修士論文審査および口述試験による最終試験の結果、可否の判定を行う</p> <p>6. 履修の条件：特別研究以外の修了要件の履修単位が認定されているか同時履修中であること。</p> <p>7. その他：修士論文のゴールをイメージしながら論文作成に臨むこと。</p>					

科目名	特別研究			担当教員：永田 美和子	
科目名(英語)	Master's Thesis of Science in Nursing				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
8	2	前期・後期	1~2人	421	授業終了後
<p>1. 授業の概要：</p> <p>専門演習の履修により作成した研究テーマに即した研究計画書をもとに研究を進め、修士論文を作成する。倫理審査申請後、研究計画にそって、データの収集、分析解釈、考察など中間発表までの指導を行なう。その後、論文を作成し、公開発表のプレゼンテーションの方法や論文提出までの修士論文作成の一連の指導を行う。</p> <p>2. 到達目標：</p> <p>①自己の研究テーマに沿って作成した研究計画を実施できる。 ②高齢者看護学領域の質向上に貢献できる修士論文を作成する。 ③修士論文を公開発表会でプレゼンテーションし、最終審査に合格できる。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>前期</p> <p>第1週～第12週 倫理審査申請後、ゼミで指導を受けながら、研究計画に基づいて、データの収集を行う。データの分析、解釈、考察などを進める。</p> <p>第13週～第15週 中間発表会にむけた準備と中間発表会の実施</p> <p>8月 中間発表会</p> <p>8月に研究経過および成果の発表の場として、中間発表会を行うため、発表の準備を行なう。発表会で指摘された問題を確認し、課題解決を行う。</p> <p>後期</p> <p>第1週～第15週 修士論文作成～提出 9月～12月</p> <p>論文の全体構成、資料・データの分析・整理法、図表の作成、文献検索など、論文作成までの指導を受けながら、論文を完成させ、12月下旬までに、修士論文に学位論文審査願及び論文要旨を添えて提出する。</p> <p>最終試験の実施 1月</p> <p>論文内容の審査および口述試験による最終試験があるため、その準備を行う。 論文審査および口述試験を受ける。</p> <p>修士論文の最終提出 2月</p> <p>最終試験で指摘された事項を修正した修士論文を最終提出する。</p> <p>公開発表会 2月</p> <p>研究成果の発表の場として公開発表会があるので、指導教員のもとで、発表内容をまとめ、研究成果を発表する。</p> <p>4. テキスト： 「バーンズ&グローブ 看護研究入門 第7班」黒田裕子、中木高夫、逸見功監修 「APA 論文作成マニュアル」APA 江藤裕之他訳 医学書院 参考文献： 随時提示する。</p> <p>5. 成績評価の方法：</p> <p>修士論文審査および口述試験による最終試験の結果、可否の判定を行う</p> <p>6. 履修の条件：特別研究以外の修了要件の履修単位が認定されているか同時履修中であること。</p> <p>7. その他：修士論文のゴールをイメージしながら論文作成に臨むこと。</p>					

科目名	特別研究				担当教員：小西 清美	
科目名(英語)	Master's Thesis of Science in Nursing					
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー	
8	2	通年	1~2	看研7	火曜日・木曜日7限	
<p>1. 授業の概要：</p> <p>専門演習の授業で作成した研究計画書をもとに研究を進められる。研究遂行のための諸条件を整え、修士論文の完成までの過程を指導する。具体的には、研究計画を倫理審査申請し、承認を得た後、研究を開始する。研究計画にそって、データ収集、データ分析・解析、結果の整理、考察など中間発表までの指導を行なう。その後、論文を作成し、公開発表のプレゼンテーションの方法や論文提出までの過程を指導する。</p> <p>このクラスの研究領域は、母性看護学領域である。主として、女性の各ライフステージの性と生殖に関する健康問題への援助法について、主観的指標や客観的指標（皮膚表面温度、携帯用心電図：心拍数、心拍変動等）を用いた研究手法を主体に研究指導を行い、修士論文を作成していく。</p> <p>2. 到達目標：</p> <p>母性看護分野における研究課題に関する研究計画書に基づいて研究を実施し、その結果を踏まえて修士論文を作成する。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>母性看護学特論Ⅰ，母性看護学特論Ⅱ，専門演習(母性看護学)での学習をふまえて以下の課題に取り組む。</p> <p>前期 第1週～第15週</p> <p>①フィールド開拓：研究協力の依頼ならびに研究対象者の選択の過程を通じて、適切なフィールドを開拓する方法を学ぶ。</p> <p>②データ収集の実施：実際にデータ収集を行うことにより、適切なデータ収集の方法ならびにデータ収集に伴う諸問題への対処方法を体験的に学習する。</p> <p>③データ分析の実施：指導教員のスーパーバイスを適宜受けることにより、分析結果の妥当性・信頼性を高めると同時に、分析能力を培う。</p> <p>後期 第1週～第15週</p> <p>④分析結果の考察：分析結果を踏まえて、文献検討により考察を深める。</p> <p>⑤修士論文の作成：一連の研究過程の成果をまとめて修士論文を作成する。</p> <p>4. テキスト： 研究課題にそって随時提示する。 参考文献： 研究課題にそって随時提示する。</p> <p>5. 成績評価の方法：</p> <p>データ収集・データ分析ならびに研究結果の考察、修士論文の作成の一連の過程における成果ならびに学習態度を総合的に評価する。</p> <p>6. 履修の条件：特別研究以外の修了要件の履修単位が認定されているか同時履修中であること。</p> <p>7. その他：特になし</p>						

科目名	特別研究			担当教員：島田 友子	
科目名(英語)	Master's Thesis of Science in Nursing			連絡先：shimada@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
8	2	通年	1～2	研 405	火曜日・木曜日 7 限

1. 授業の概要：

専門演習の授業で作成した研究計画書に基づくデータ収集・分析、論文作成、発表、評価に至るまでの一連の研究過程を通し、看護学研究成果を産出・累積する意義を認めるとともに看護専門職としての研究的態度を修得する。

具体的には、倫理審査申請後、研究を開始し、データ収集、データ分析・解析、考察など中間発表を行う。その後、論文を作成し、公開発表のプレゼンテーションの方法を学ぶ。

このクラスの研究領域は、母性看護学領域である。主として、女性とその家族に関する健康問題への援助法について、質的、量的研究手法を用いて探求し、修士論文を作成していく。

2. 到達目標：

女性とその家族に関する健康問題への援助に繋がる研究課題に基づいて、研究に取り組み、その結果を踏まえて修士論文を作成する。

3. 授業の計画と内容

母性看護学特論Ⅰ，母性看護学特論Ⅱ，専門演習(母性看護学)での学習をふまえて以下の課題に取り組む。

前期 第1週～第15週

①フィールド開拓：研究協力の依頼ならびに研究対象者の選択の過程を通じて、適切なフィールドを開拓する方法を学ぶ。

②データ収集の実施：実際にデータ収集を行うことにより、適切なデータ収集の方法ならびにデータ収集に伴う諸問題への対処方法を体験的に学習する。

③データ分析の実施：指導教員のスーパーバイスを適宜受けることにより、分析結果の妥当性・信頼性を高めると同時に、分析能力を培う。

後期 第1週～第15週

④分析結果の考察：分析結果を踏まえて、文献検討により考察を深める。

⑤修士論文の作成：一連の研究過程の成果をまとめて修士論文を作成する。

4. テキスト： 研究課題にそって随時提示する。

参考文献： 研究課題にそって随時提示する。

5. 成績評価の方法：

データ収集・データ分析ならびに研究結果の考察，修士論文の作成の一連の過程における成果ならびに学習態度を総合的に評価する。

6. 履修の条件：特別研究以外の修了要件の履修単位が認定されているか同時履修中であること。

7. その他：特になし

科目番号	科目名	特別研究		担当教員：松下聖子	
	科目名(英語)	Master's Thesis of Science in Nursing			
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
8	2	前期・後期	1~2人	看研227	火曜日5限

1. 授業の概要：

専門演習の履修により作成した研究テーマに即した研究計画書をもとに研究を進め、修士論文を作成する。倫理審査申請後、研究計画にそって、データの収集、分析解釈、考察など中間発表までの指導を行なう。その後、論文を作成し、公开发表のプレゼンテーションの方法や論文提出までの修士論文作成の一連の指導を行う。
2. 到達目標：

修士論文を作成し、公开发表会でプレゼンテーションを行い、最終審査に合格できる。
3. 授業の計画と内容

前期

第1週～第12週 研究計画に基づいて、研究実施の準備（研究協力依頼等）、研究実施（データの収集等）、データの分析、解釈、考察。

第13週～第15週 中間発表会にむけた準備と中間発表会の実施

9月 中間発表会

9月に研究成果の発表をする場として、中間発表会を行うため、発表の準備を行なう。発表会で指摘された問題を確認し、課題解決を行う。

後期

第1週～第15週 修士論文作成～提出 9月～12月

論文の全体構成、資料・データの分析・整理法、図表の作成、文献検索など、論文作成までの指導を受けながら、論文を完成させ、12月下旬までに、修士論文に学位論文審査願及び論文要旨を添えて、指導教員を経て研究科長に提出する。

最終試験の実施 1月

論文内容を中心として口述又は筆記試験により最終試験があるため、その準備を行う。論文審査および口述試験を受ける。

修士論文の最終提出 2月

最終試験及び公开发表会で指摘された事項を修正した修士論文を最終提出する。

公开发表会 2月

研究成果の発表の場として公开发表会があるので、指導教員のもとで、発表内容をまとめ、研究成果を発表する。
4. テキスト： 随時提示する。
参考文献： 随時提示する。
5. 成績評価の方法：

修士論文審査および口述又は筆記試験による最終試験の結果、可否の判定を行う
6. 履修の条件：特別研究以外の修了要件の履修単位が認定されているか同時履修中であること。
7. その他：特になし

科目名	特別研究				担当教員：鈴木 啓子	
科目名(英語)	Master's Thesis of Science in Nursing					
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー	
8	2	前期・後期	1~2	看研 17	火曜日・金曜日 7限	
<p>1. 授業の概要：</p> <p>専門演習の履修により作成した研究テーマに即した研究計画書をもとに研究を進め、修士論文を作成する。倫理審査申請後、研究計画にそって、データの収集、分析解釈、考察など中間発表を行なう。その後、論文を作成し、公開発表のプレゼンテーションの方法を学ぶ。</p> <p>このクラスの研究分野は、精神看護学分野である。主として、精神科における危機介入や看護職のメンタルヘルスおよび精神障害者のリハビリテーションおよび家族支援などの精神看護学に関連した対象の選定や具体的な研究の進め方、データ収集の方法と処理、分析方法、データの解釈について研究指導を行い、修士論文を作成していく。</p> <p>2. 到達目標：</p> <p>精神看護領域における研究課題に関する研究計画書に基づいて研究を実施し、その結果を踏まえて修士論文を作成する。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>精神看護学特論Ⅰと精神看護学特論Ⅱ，専門演習(精神看護学) での学習を踏まえて以下の課題に取り組む。 (学生により進度は異なる)</p> <p>前期 第1週～第15週</p> <p>①フィールド開拓：研究協力の依頼ならびに研究対象者の選択の過程を通じて、適切なフィールドを開拓する方法を学ぶ。</p> <p>②データ収集の実施：実際にデータ収集を行うことにより、適切なデータ収集の方法ならびにデータ収集に伴う諸問題への対処方法を体験的に学習する。</p> <p>③データ分析の実施：指導教員のスーパーバイスを適宜受けることにより、分析結果の妥当性・信頼性を高めると同時に、分析能力を培う。</p> <p>後期 第1週～第15週</p> <p>④分析結果の考察：分析結果を踏まえて、文献検討により考察を深める。</p> <p>⑤修士論文の作成：一連の研究過程の成果をまとめて修士論文を作成する。 修士論文は提出期限までに、学位論文審査願及び論文要旨を添えて、指導教員を経て研究科長に提出する。</p> <p>4. テキスト：バーンズ&グローブ(黒田裕子他監訳, 2015年)「バーンズ&グローブ看護研究入門：実施・評価・活用」 エルゼビア・ジャパン</p> <p>5. 成績評価の方法：</p> <p>データ収集・データ分析ならびに研究結果の考察、修士論文の作成の一連の過程における成果ならびに学習態度を総合的に評価する。</p> <p>6. 履修の条件：特別研究以外の修了要件の履修単位が認定されているか同時履修中であること。</p> <p>7. その他：特になし</p>						

科目名	特別研究			担当教員：大城 凌子	
科目名（英語）	Master's Thesis of Science in Nursing				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
8	2	前期・後期	1～2	看研 13	月曜日・木曜日 7限

1. 授業の概要：
 専門演習で作成した研究計画書をもとに研究を進め、修士論文を作成する。倫理審査申請後、研究計画にそって、データの収集、分析解釈、考察など中間発表までの指導を行なう。その後、論文を作成し、公開発表のプレゼンテーションの方法や論文提出までの修士論文作成の一連の指導を行う。
 このクラスの研究分野は地域在宅看護学分野である。主として、在宅ターミナルや家族への援助を含めたコミュニティーケアに関連する研究について、フィールドワークや面接調査などによる研究手法を主体として研究指導を行い、修士論文を作成していく。

2. 到達目標：
 地域在宅看護分野における研究課題に関する研究計画書に基づいて研究を実施し、その結果を踏まえて修士論文を作成する。

3. 授業の計画と内容
 在宅看護学特論Ⅰ，在宅看護学特論Ⅱ，専門演習(在宅看護学)での学習をふまえて以下の課題に取り組む。

前期 第1週～第15週

①フィールド開拓：研究協力の依頼ならびに研究対象者の選択の過程を通じて、適切なフィールドを開拓する方法を学ぶ。
 ②データ収集の実施：実際にデータ収集を行うことにより、適切なデータ収集の方法ならびにデータ収集に伴う諸問題への対処方法を体験的に学習する。
 ③データ分析の実施：指導教員のスーパーバイスを適宜受けることにより、分析結果の妥当性・信頼性を高めると同時に、分析能力を培う。

後期 第1週～第15週

④分析結果の考察：分析結果を踏まえて、文献検討により考察を深める。
 ⑤修士論文の作成：一連の研究過程の成果をまとめて修士論文を作成する。

4. テキスト： 随時提示する。
 「看護研究 原理と方法」 監訳 近藤潤子 医学書院
 「APA 論文作成マニュアル」 APA 江藤裕之他訳 医学書
 「フィールドワークの技法」 佐藤郁也 新曜社

5. 成績評価の方法：
 データ収集・データ分析ならびに研究結果の考察、修士論文の作成の一連の過程における成果ならびに学習態度を総合的に評価する。

6. 履修の条件：特別研究以外の修了要件の履修単位が認定されているか同時履修中であること。

7. その他：特になし

※シラバスはクラスの状態、講義の進行状況によって変更することがありますので、あらかじめご理解下さい。

科目名	特別研究			担当教員：田場 真由美	
科目名(英語)	Master's Thesis of Science in Nursing				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
8	2	前期・後期	1～2	看研 15	火曜日・金曜日 7 限
<p>1. 授業の概要：</p> <p>専門演習の履修により作成した研究テーマに即した研究計画書をもとに研究を進め、修士論文を作成する。倫理審査申請後、研究計画にそって、データの収集、分析解釈、考察など中間発表を行なう。その後、論文を作成し、公開発表のプレゼンテーションの方法を学ぶ。</p> <p>このクラスの研究分野は、公衆衛生看護学分野である。主として、公衆衛生における健康課題や健康増進、保健師の現任教育などおよび家族支援などの公衆衛生看護学に関連した対象の選定や具体的な研究の進め方、データ収集の方法と処理、分析方法、データの解釈について研究指導を行い、修士論文を作成していく。</p> <p>2. 到達目標：</p> <p>公衆衛生看護領域の研究課題に関する研究計画書に基づき研究を実施し、その結果を踏まえて修士論文を作成する。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>公衆衛生看護学特論Ⅰと公衆衛生看護学特論Ⅱ，専門演習(公衆衛生看護学)での学習を踏まえて以下の課題に取り組む。(学生により進度は異なる)</p> <p>前期 第1週～第15週</p> <p>① フィールド開拓：研究協力の依頼ならびに研究対象者の選択の過程を通じて、適切なフィールドを開拓する方法を学ぶ。</p> <p>② データ収集の実施：実際にデータ収集を行うことにより、適切なデータ収集の方法ならびにデータ収集に伴う諸問題への対処方法を体験的に学習する。</p> <p>③ データ分析の実施：指導教員のスーパーバイスを適宜受けることにより、分析結果の妥当性・信頼性を高めると同時に、分析能力を培う。</p> <p>後期 第1週～第15週</p> <p>④分析結果の考察：分析結果を踏まえて、文献検討により考察を深める。</p> <p>⑤修士論文の作成：一連の研究過程の成果をまとめて修士論文を作成する。</p> <p>修士論文は○月○日までに、学位論文審査願及び論文要旨を添えて、指導教員を経て研究科長に提出する。</p> <p>4. テキスト：</p> <p>D.F. ポーリット&C.Tベック、近藤潤子(監訳)：看護研究 原理と方法 第2版, 医学書院, 2016.</p> <p>APA 江藤裕之他訳：APA 論文作成マニュアル, 医学書院, 2004.</p> <p>市原清志：バイオサイエンスの統計学 南江堂, 1990.</p> <p>参考文献：前田樹海, 江藤裕之:APAに学ぶ 看護系論文執筆のルール, 医学書院, 2017.</p> <p>5. 成績評価の方法：</p> <p>データ収集・データ分析ならびに研究結果の考察、修士論文の作成の一連の過程における成果ならびに学習態度を総合的に評価する。</p> <p>6. 履修の条件：特別研究以外の修了要件の履修単位が認定されているか同時履修中であること。</p> <p>7. その他：特になし</p>					

科目名	特別研究				
科目名 (英語)	Master's Thesis of Science in Nursing				担当教員： 砂川 昌範
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
8	2	前期・後期	2	研 405	火曜日・木曜日 7限
1. 授業の概要： <p>専門演習の履修により作成した研究テーマに即した研究計画書をもとに研究を進め、修士論文を作成する。 倫理審査申請後、研究計画にそって、データの収集、分析解釈、考察など中間発表までの指導を行なう。その後、論文を作成し、公開発表のプレゼンテーションの方法や論文提出までの修士論文作成の一連の指導を行う。 病態生理学分野の特別研究では、主として細胞を用いた病態の解明やヒトの血液、尿、唾液中の物質濃度測定をとおしての病態理解について、実験による研究手法を主体に研究指導を行い、修士論文を作成していく。</p>					
2. 到達目標： <p>病態生理学分野における研究課題に関する研究計画書に基づいて研究を実施し、その結果を踏まえて修士論文を作成する。</p>					
3. 授業の計画と内容 <p>病態生理学、臨床看護学特論Ⅱ（病態生理学領域）、専門演習（病態生理学）での学習をふまえて以下の課題に取り組む。</p> <p>前期 第1週～第15週：</p> <p>①実験に必要な技術の習得：細胞培養法、タンパク質化学、核酸分析などの基礎的な知識と技術を習得する。 ②データ収集の実施：研究計画に基づき実験を実施し、適切なデータ収集の方法ならびにデータ収集に伴う諸問題への対処方法を体験的に学習する。 ③データ分析の実施：指導教員のスーパーバイスを適宜受けることにより、分析結果の妥当性・信頼性を高めると同時に、分析能力を培う。</p> <p>後期 第1週～第15週：</p> <p>④分析結果の考察：分析結果を踏まえて、文献検討により考察を深める。 ⑤修士論文の作成：一連の研究過程の成果をまとめて修士論文を作成する。</p>					
4. テキスト： 研究課題にそって随時提示する。 参考文献： 研究課題にそって随時提示する。					
5. 成績評価の方法： <p>データ収集・データ分析ならびに研究結果の考察、修士論文の作成の一連の過程における成果ならびに学習態度をルーブリックを活用して、総合的に評価する。</p>					
6. 履修の条件：特別研究以外の修了要件の履修単位が認定されているか同時履修中であること。					
7. その他：特になし					